

如翅亦赤大不過二三寸、其中首尾一寸者海俗呼號山神鱗。或不擇寸混謂山神鱗者非也。若海上連日風濤惡不能網釣、漁人手捧一寸鱗敬供山神而禱曰風穩波靜釣網有便則明日必海上平穩漁人多獲矣。此魚相豆房總海濱入雜魚之網來、海西諸濱亦希得之一種狀似河豚而不濶腹頭面亦稍小、不怪不稜、背灰白有白斑紋如虎鰐之文、海俗呼號武島鱗。味甘淡略似河豚、剝皮煮肉以雖亂河豚而不及美、故嗜河豚而恐毒者食之、江東三四月八九月多采之。

肉氣味甘溫有小毒、山神鱗者人未食之。

〔大和本草 海魚〕ハタハタ 奧州ニ多シ、白シテ長七八寸、頭廣ク尾小ナリ、色銀箔ノ如シ、味淡クシテ美ナリ、爲鮓爲鹽淹十月ニ多ク捕ル、

〔魚鑑上〕はたく 一名かみなりうを古へは常陸水戸に産す今は出羽秋田に多し、この魚性雷聲を好めり、ゆへに酉陽雜俎にこれを雷魚といふ。

〔採藥使記中〕重康曰、奥州又羽州サカノ島邊ニハタト云魚アリ、一名雷魚、一名佐竹魚トモ云フ、其形チ鱈ニ似テ七八寸計、鮓ニシテ食フ、味ヒ好ト云フ、

光生按ズルニ、此魚ノ鱈ヲフリト云フテ賞味トス、土人ノ曰、此魚ムカシヨリ佐竹氏ノ領スル所ヘ、何國ヘモ、ウツリ生ル、故ニ一名佐竹魚トモ云フ、此魚九十月雷ノ鳴ル時、必多ク是ヲ捕ル、中華ニモ雷ノ鳴時出ル魚アリ、興州ニ雷穴ト云フ所アリ、雷ノ鳴ル度ニ、其穴ヨリ魚多ク流レ出ルヨシ、圓機活法ニモ引ケリ、

〔一話一言十一〕鰯

鰯魚の形少さく、鱗の中に富士山のもやふを生じ候故、めでたき魚と祝し、文字はいつごろよりか、魚篇に神と書なりもとは常陸の水戸に生じ候、秋田へ國替を仰付られ候て、秋田の先祖秋田へ被越候節、領主につきて右の魚も秋田へこし候よし、秋田杉直物語にみへたり、忠左衛門那阿